

# 令和2年豪雨災害のボランティア・医療支援への参加

小国公立病院 副院長・災害対策委員長 片岡恵一郎

# ゆたあ〜と

世界中で自然災害が増えていると言われており、人類全体の課題となっています。

7月の豪雨で小国郷でもかなりの被害が出ており、復旧半ばの方もまだまだ沢山いらつしやると思っています。心よりお見舞い申し上げます。

2016年の熊本県地震・今年7月の豪雨災害を経て、熊本は日本の中でも自然災害がよく起る地域として認知される様になっており、私達もその様に認識を変化させるべきなのでしょう。

小国公立病院は災害の際には地域の災害医療の拠点となる必要があります。

数年前より災害対策委員会が立ち上がり、災害医療の専門家がいない中で、スタッフに知恵を絞りながら、災害時のマニュアルを整備したり、水害時の避難訓練をしたり、できる事から積み上げていっているというのが現状です。

そういう中で、今年の夏の豪雨災害では、有志が被災地に向いてボランティア活動を行い、現場での作業・支援を実体験してきました。

まず、2020年7月19日、小国町社会福祉協議会が募集していた災害ボランティアに有志が参加しました。

ボランティアのニーズのマッチングにより、私は午前中は、小国のキャンプ場に派遣される事になり、水害ゴミの撤去作業を行いました。



遊水峡にてボランティア

発行  
小国公立病院  
0967-46-3111  
おぐに老人保健施設  
0967-46-6111  
訪問看護ステーション  
0967-46-6050

41号  
令和2年10月

小国公立病院  
HPアドレス  
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>

被災地の医療機関は、自院・自施設の維持・回復で精一杯になつてしまつたため、他地域からの支援が必須となります。東日本大震災以後、被災地に医療支援に入るチームが次々と組織される様になり、現在は、DMAT・JMATA・DPA・TEAMが存在しています。

身の上まで水に浸かつてしまった事務所、いたるところに点在する、流れてきた雑木や岩。キャンプ場として復旧するまでは、途方も無い作業量という事がすぐにわかりました。

数時間の作業でできる事はほんの僅かでしたが、それでも、キャンプ場でのボランティアのニーズがあり、重機を扱えるプロではなくとも人の手さえあれば出来る事が沢山あるということが実感できました。

午後は、被災した民家に派遣され、床下の泥かきを行いました。

私にとって初めての経験で、畳と床板を外して行う泥の掻き出し作業に、一軒につきどれだけの労力が必要なのか実感できませんでした。

住んでいる人の人数だけでこなすには、とても無理のある作業量でした。



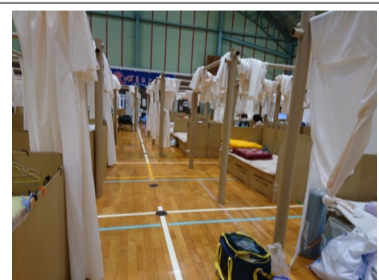
1日ボランティアを行つてみて、普段の運動不足を実感しました。50歳の私の体力では1日の作業が限界で、体力回復に3〜4日かかつてしまいました。この体力消耗の激しい作業を高齢の方だけで連日行うのはほぼ無理です(少なくとも私は無理)。

すべての被災した民家での作業量は予想以上なもので、民家レベルの被災にも、ボランティアのニーズがかなりある事が実感できました。

次に、7月25日に、人吉の被災地にJMATAとして、災害医療支援に参加してきました。

JMATAという単語は一般の方には馴染みが薄いかもかもしれませんが、Japan Medical Association Teamの略で、日本医師会により組織される災害医療チームです。

被災地の医療機関は、自院・自施設の維持・回復で精一杯になつてしまつたため、他地域からの支援が必須となります。東日本大震災以後、被災地に医療支援に入るチームが次々と組織される様になり、現在は、DMAT・JMATA・DPA・TEAMが存在しています。



避難所の様子

本部より我々に与えられたミッションは、2つの避難所の視察・評価と巡回診療でした。但し、これは入れ代わり立ち代わり入つてくるチームが毎日交代でやつている



人吉JMATA派遣

当日朝8時に人吉に入り、早朝のミーティングに参加しました。河川氾濫のあつた7月4日より既に1ヶ月半以上経過し、そろそろ調整本部をたたもつとされている時期にもかかわらず、ミッション伝達だけでも、1時間以上の時間をかけて説明をされました。災害医療のプロではないよそ者を使うのにはかなり気を使われるのだらうな、ということが容易に想像されました。

事柄は、町中には、あちこちにまだ水害の傷跡が残つており、復興までの道のりはまだまだ始まつたばかり、という印象でした。支援に行つたつもりでしたが、むしろ、小国で災害が起つたときに、被災地での様な管理・運営が必要なのかを教えて頂くなど、自分たちの勉強になることがずつと多かつた被災地医療支援でした。

今回実際にボランティアや支援を経験してみて感じた事は、他所からの支援活動は被災地の為になるという面もありますが、むしろ支援する側の経験値になることが多いということです。

災害はいつ誰に降り掛かつてくるかわかりません。支援する側・される側、どちらになつた時も「慌てず騒がず冷静に」対応していけるだけの肌感覚の経験値を積んでおくことは必要な事で、その為にも被災地にボランティアとして入つて様々な事を経験しておくことは重要だと感じました。

被災地の医療機関は、自院・自施設の維持・回復で精一杯になつてしまつたため、他地域からの支援が必須となります。東日本大震災以後、被災地に医療支援に入るチームが次々と組織される様になり、現在は、DMAT・JMATA・DPA・TEAMが存在しています。



人吉 青井阿蘇神社近く



# [職員紹介]

きよたか あい  
**清高 愛 2階看護師**

小国公立病院の皆様。3月から2階病棟勤務になりました、看護師の清高愛と申します。



地域の皆様の為に、そして、一緒に働く医療スタッフの皆様と協力し合いながら、笑顔で心ある医療の提供を行いたいと思いますので宜しくお願い致します。



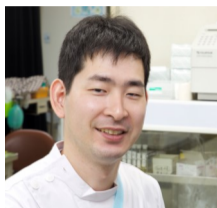
たがわ たいぞう  
**田川 泰造 老健看護師**

5月よりおぐに老人保健施設で勤務させて頂くことになりました田川泰造と申します。私は以前、精神科病院で働いていたため、老人保健施設での勤務は初めてですが、先輩方のおかげでしっかりと学びながら、一生懸命頑張りますので、宜しくお願いします。



しもむら あきひと  
**下村 章仁 臨床検査技師**

4月より検査科で働かせて頂いています。病院スタッフの皆様には、温かく迎え入れて頂き、ありがとうございます。今まで検査センターでの勤務が多かったため、学ぶことの多い毎日ですが、今までの知識も生かしつつ、新しいことも学んでいこうと思います。早く1人前になり、小国地域の医療に貢献できるよう頑張っていこうと思います。宜しくお願いします。



いまむら たけはる  
**今村 武晴 薬剤師**

2月から病院薬剤師として働かせていただいています。調剤薬局での勤務が長いですが、病院薬局での経験が浅く、仕事の中で学ぶことが多いです。病院内の仕事のながれ、システムに早く慣れて、小国の医療に貢献していきたいです。趣味はゲームとエクセルとメモです。

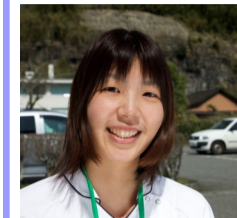


## ありがとうございました 支援看護師紹介

紹介が遅くなりましたが、4月より半年間、支援看護師として、勤務して頂きました。



なすあかね  
**那須亜香音 看護師**



熊本赤十字病院からまいりました、那須亜香音と申します。4月から3階病棟でお世話になりました。今まで、急性期病院で働いていたため、初めての包括病棟での勤務で、わからないこともありましたが、先輩方の中で学ぶ事が多く、とても勉強になりました。

半年間という間でしたが、お世話になりました。

## 職員川柳

〜詠み人 ナース編①〜



自粛期間  
食っちゃ寝しすぎ  
肉ついた...

マスクする

おかげで化粧が  
超、適当



次号のゆたあ〜と新聞は、令和2年11月中旬に発行予定です。お楽しみに!!

おぐに老健便り

# おぐに老健に妖怪「アマビエ」降臨!

## 疫病退散!!

「アマビエ」とは、ご存じの方も多しと思いますが、熊本の海に現れた妖怪の名前で、江戸時代に疫病を予言したとされています。コロナが世界的に流行する中、疫病退散のご利益を得ようと妖怪「アマビエ」の絵や置物など日本国中で沢山の「アマビエ」が誕生しています。

そして、おぐに老健にも「アマビエ」が2体降臨していただくことができました。



一つ目は、おぐに老健の機能回復訓練室の壁にいらっしやいます。二つ目は、御神輿の上に鎮座して頂いています。

コロナ流行はおちついてまた安心した毎日が過ぎるようになる、そんな妖怪「アマビエ」が老健で皆様を毎日見守っています。

おぐに老人保健施設  
広報委員  
後藤百合子  
佐藤 恵麻



き写した絵を人々に見せよ。帰って行ったとされています。



江戸時代の言い伝えでは、「豊作が続くが同時に疫病が流行する。私の姿を描くと告げ、海の中へと

どちらも色紙を一つ一つ丸めたり、切ったりして張り付け、「コロナの流行がおちつきましますように」と願いを込め、老健入所者さま手作りで降臨していただくことができました。